



志
保
之
利
三
篇
土

1冊5
508
41



門 4 5
508
卷 41

志 子 一 三 卷 之 十一

徹書記

正徹和尚字清岩招月庵
号せし東福寺住持也

近代の初より世に

ありしより多し 長祿二年六月九日寂を七十九歳遺稿と

草根集と名づく 一条福圓鎌吉書序成書終ひし朝

野蔭苑高名集成見しに新續古今撰者雅世大納

言毛鳥井 堯孝傳記ありと徹書記の才と如志して彼

才と集れりしれりしとより凡秀才と時の人よ如志

也

○心教傍部希十ハ文明七年に月十六日寂を七十一歳

○或曰我信十一月天台大師講の紅粥と喫し今日より

一歳と師と是の節を予曰されぬる粥と誤傳し



大原志の御社に混一は多祢按考に陸放翁が著る一聯
に家貧輕過節身老怯殘年注云郷信野雲を至敬
昂深一歳是歳心る云一

○尾張國ミヅエ天香諾山ヤマ余の齋國造とあり故に以神の
伊未ある由居の神社あり一三河を以陸河の三摩志
麻治命の後裔國造とあり信之彼神の屬あり
中居の神社あり

尾張國造

小止與余

尾張氏社于電上神社
佐よ深を文の云と傳

三河國造

知波夜余

物部氏

遠江國造

印岐美余

物部氏

駿河國造

片堅石余

物部氏

尾張氏と物部氏ありと足利の神より祀儀速日言へ
されハ尾張三河亦又中居の物部氏あり一昔此玉造
の支流なり

○三河國神名帳ホイ皇候ウタリ免足神社ハ玉造本紀ハ穂の
今、宝塚郡
昔ハ玉下村玉造ハ生以以社免工足庄と云々免足ハ
文字を略して書く物れハウソコト稱を云々今ウ
タリノ神社と呼傳る

ウカミハタト横音通一ミトワト又通より谷とタリ
ト清々似たり物ハウタリハウカミノ音便あり也や
○或同本紀に次て東海尾と弟二と一昔のまうた伊
賀より初む是左和の系あり一時の次第と也

山城と申すは、（中略）年、何所よりを予曰、續日本紀云、永
 和三年十月、承前之例、畿内國次、以乃和國、占知之才、
 初、直據新式、改之以山城國、（中略）云々、（中略）乎、山城
 遷都の後、（中略）十三年、仁明天皇の勅、定あり、年、成
 あり、（中略）

○三河国内神明名帳

八幡三所大菩薩大明神

若宮兩所天満天神

正一位砥鹿大菩薩大明神

十九所

正一位鯉鮒大明神

座碧海郡

正一位猿投大明神

座賀茂郡

正一位石巻大明神

座八名郡

正一位羽判大明神

座幡豆郡

正二位赤孫大明神

座宝飯郡

正三位磐倉大明神

座設樂郡

正三位津守大明神

座宝飯郡

正三位兔足大明神

座宝飯郡

正三位白鳥大明神

座宝飯郡

正三位謁磐大明神

座額田郡

正三位阿志大明神

座渥美郡

正三位御津大明神

座宝飯郡

正三位^{トカミ}破神大明神

座宝飯郡

正三位内母^モ大明神

座幡豆郡

正三位伊良子^{イラコ}大明神

座渥美郡

從三位竊樹大明神

座碧海郡

從三位石山大明神

座宝飯郡

從三位寅之大明神

座渥美郡

從三位猿投三御子大明神

座賀茂郡

明神二十二所

正四位下伊麻留明神

座碧海郡

正四位下糟目明神

座碧海郡

正四位下大伴明神

座八名郡

正四位下井祭明神

座宝飯郡

正四位下野社明神

座碧海郡

從四位下草部明神

座宝飯郡

從四位上犬頭明神

座碧海郡

從四位上和久知明神

座宝飯郡

從四位上白鳥三御子明神

座宝飯郡

從四位下目長明神

座碧海郡

從四位下大藏明神

座宝飯郡

從四位下稻束明神

座幡豆郡

從四位下熊来明神

座幡豆郡

從四位下齋宮明神

座幡豆郡

從四位下凍明神コホリ

座宝飯郡

從四位下形原明神カタハラ

座宝飯郡

從四位下須羽南宮明神

座設樂郡

從四位下律投明神

座幡豆郡

從四位下宇加御玉明神ウカミタマ

座設樂郡

從四位下土穴明神

座設樂郡

從四位下篠束明神

座宝飯郡

從四位下破鹿三御子明神

座宝飯郡

天神百十五所

正五位下鷲取天神

座碧海郡

正五位下小嶋天神

座碧海郡

正五位下伊保天神

座加茂郡

正五位下灰實天神ハイホ

座加茂郡

正五位下野見天神ノミ

座加茂郡

正五位下兵主天神ヒコウス

座加茂郡

正五位下廣沢天神ヒロサカ

座加茂郡

正五位下稻前天神イナカキ

座額田郡

正五位下八幡天神

座額田郡

正五位下宮道天神ミヤミチ

座宝飯郡

正五位下大庭天神

座加茂郡

正五位下長孫天神

座八名郡

正五位下廣月天神

座渥美郡

正五位下葛間天神

座渥美郡

正五位下磯部天神

座宝飯郡

正五位下菟美天神

座幡豆郡

正五位下走井天神

座幡豆郡

正五位下柱津天神

座額田郡

正五位下小山田天神

座宝飯郡

從五位上河西天神

座八名郡

從五位上和田天神

座八名郡

從五位上野屋天神

座八名郡

從五位上酒人天神

座碧海郡

從五位上火御子天神

座渥美郡

從五位上比蘇天神

座碧海郡

從五位上佐井天神

座八名郡

從五位上蒜生天神

座八名郡

從五位上加知天神

座宝飯郡

從五位上完秦天神

座額田郡

從五位上市階天神

座宝飯郡

從五位上島田天神

座設樂郡

從五位上竹谷天神

座宝飯郡

從五位上槻井天神

座宝飯郡

從五位上舟多天神

座八名郡

從五位上宝海天神

座渥美郡

從五位上温谷天神

座宝飯郡

從五位上土師天神

座宝飯郡

從五位上小河天神

座碧海郡

從五位上草佐天神

座幡豆郡

從五位上日女天神

座八名郡

從五位上伊智駿天神

座八名郡

從五位上酒井天神

座碧海郡

從五位上槻井天神

座碧海郡

從五位上於神天神

座八名郡

從五位上岸天神

座碧海郡

從五位上并栗天神

座碧海郡

從五位上酒井天神

座碧海郡

從五位上小田天神

座宝飯郡

從五位上小槻天神

座八名郡

從五位上摩乎虞天神

座宝飯郡

從五位上竹生天神

座宝飯郡

從五位上黑田天神

座八名郡

從五位上庭野天神

座宝飯郡

從五位上大津天神

座八名郡

從五位上須波天神

座設樂郡

從五位上石梅若御子天神

座設樂郡

從五位上劔若御子天神

座設樂郡

從五位上大社天神

座八名郡

從五位上神小山天神

座八名郡

從五位上大歲天神

座渥美郡

從五位上神本天神

座宝飯郡

從五位上池上天神

座宝飯郡

從五位上御宗天神

座宝飯郡

從五位上美禮天神

座宝飯郡

從五位上八剱天神

座宝飯郡

從五位上国津天神

座八名郡

從五位上厚木天神

座宝飯郡

從五位上出雲天神

座宝飯郡

從五位上石上天神

座宝飯郡

從五位上牟留天神

座渥美郡

從五位上楠本天神

座渥美郡

從五位上西堂春天神

座宝飯郡

從五位上神月天神

座宝飯郡

從五位上宮解天神

座宝飯郡

從五位上伊久佐男天神

座渥美郡

從五位上伊久佐女天神

座渥美郡

從五位上多美河津天神

座宝飯郡

從五位上槻村天神

座宝飯郡

從五位上葦木天神

座宝飯郡

從五位下 絹束天神

座 八名郡

從五位下 黒揚天神

座 宝飯郡

從五位下 善徳天神

座 宝飯郡

從五位下 櫻井天神

座 宝飯郡

從五位下 三祭天神

座 宝飯郡

從五位下 穴社天神

座 宝飯郡

從五位下 大歳天神

座 宝飯郡

從五位下 溝庭天神

座 宝飯郡

小初位神七所

今規若御子

座 宝飯郡

上羽神

座 宝飯郡

御與木 素部若御子

座 宝飯郡

御與神

座 八名郡

磯宮神

座 宝飯郡

高宮若御子

座 額田郡

牟久津神

座 額田郡

終

三列賀茂郡 猿投大明神前

宝樹院周海書之

干元元祿五年壬子中春吉奠

○甲午の三月 霏蒙ハイモウ 一ヶ月 月光ヒツキ あり 一ヶ月の比

肥州長崎港疫癘大に流行し比屋病床に列し死
至りその七万余に及ひ六月病上流て九州宗中國
乃知ると亦疫癘一時に引去れ是又死者その意
多しと云甲寅月難波重仲子及の深疫の事あり
苦しと然る泉南を云く境の高き死之難あり
ありと云くその細と云く人形を化し夜に入敷千
人金幣を夜と云く泣ひ云く昔代未だの事あり
一室東も同一と云く一室府下中元の事疫癘
に外し醫師茶野と云く時ありしと云く三
日にてやうて活かし死亡するとの事あり
江後之乃諸州事類も同一疫癘深き事あり

云ふ三夜病と云く類あり

○昔皇都大學寮に先聖孔子先師孔子九哲孔子の像を
宗の二仲の款をめぐりしに孔子一松ハ延喜式等に
見ゆ六十余列の玉子孔子と名を著す秋の礼をばし
あり書世に及ひ孔子の學級孔子一人と名を著す孔子
中清郡玉瀨菰園村下 聖の利孔子の校の外孔子堂と云
林よその板あり 聖の利孔子の校の外孔子堂と云
聖の利孔子の校の外孔子堂と云 敬公孔子の校の外孔子堂と云
城内又聖堂を建て新業とせしむるなり
那村氏の宅地又然る大成殿を建てせしむるなり
二仲の事も十年あり 常憲贈大相國の
神國地と云く昌子板と号し新の

神國地

延喜式

神國地と云く昌子板と号し新の

大成殿と再建あり新号此梁と良古にかりぬ道
きん紀州長湯の吏と家に聖位とりわけ祀きり
と富永七年唐宮作久間也無寺平信新宮と舊
新に重きと宮一孔子と下の神位考り明神の
制は效ひおまをさす一春秋の系あり一を信
学舎と建て毎に書と誦せしむ白井元成唐の令
時く系り注礼を是を多化あり

○己亥春丹波國お文。東とや山ぬうく蝶蛇と寺
人成惚と一と物人鏡とておと免一とこれ地取見
と信ととて東都へ首斗おの三月中此持飯り一
と見一とて人河とたふ山斗ぬく屋の小さ物とて

西耳あり頭ふおと毛むりくと生ひる一とあや

○天子ゆゆと物とと云物と云ハ後花園院の時より
呼りり古ハとと事あり一とと

○新屋今宮東乃友屋字の隔舎とわかせるふ

○遠州秋葉山

大登山秋葉寺中尊觀音云云又同山光明山
ハ大鏡山光明寺と号は本尊ハ普賢空統なり世
あ寺曹洞派の古福刺なり秋葉寺ハ徑昔天
地也世と遠をせし

五以前藤州大守法空淨辨居士天野景顯
山宗天院前戸部侍而顯道義本居士天野
遠幹

是乃秋葉幸院大檀越なり

法身表

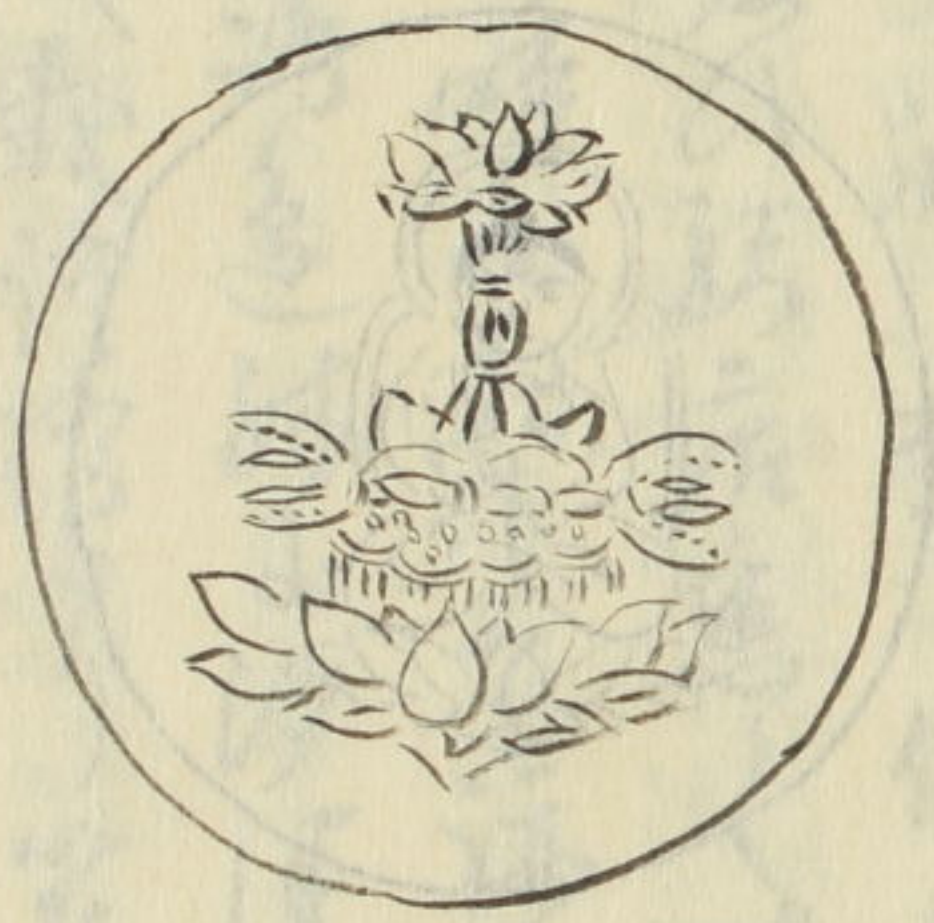
弥陀種子



蓮華部

報身表

三昧耶形



金剛部

とあされたる松なり。天和元年辛酉七月十日暴風
洪水の時、熊野一の民家八軒流れ、後かゝる
か、今年に十
二年に也星濤の廣より、南乃り大形破れ、
里もあく、堤防の相毀く、澤死又百と云ひ、
大野南のさのともあ、けり、さす、さす、さす、さす
に、おまの、さす、さす、さす、さす
浪り、さす、さす、さす、さす
蟹に破れ、川に流下、さす、さす、さす、さす
九と云、さす、さす、さす、さす
も、さす、さす、さす、さす
蓋風、さす、さす、さす、さす
引、さす、さす、さす、さす

百戸倒れ、東南、さす、さす、さす、さす
多、さす、さす、さす、さす
同、さす、さす、さす、さす
大、さす、さす、さす、さす
堤、さす、さす、さす、さす
松、さす、さす、さす、さす
同、さす、さす、さす、さす
志、さす、さす、さす、さす
り、さす、さす、さす、さす
田、さす、さす、さす、さす
三、さす、さす、さす、さす

○ ヘイサイ 茶ハ 狎ハ 碎茶あり

○ 裸麥 赤利麦あり

○ 三吏

史記漢書前後とふこれ又文選と合せ

訓讀通せし者と中世傳本の事とあり

○ 三註

千字文蒙求胡曾詩の注解といふ是亦中世傳本の注
考へて後漢注考へて世宗注考へて一也世又三注
詩古文真宝乃以錦綉段杜律と讀取して早と傳本と
異り

青蓮眺丹菓店と對あり 竺土青蓮花あり 千光者
白分明にして大人眼目の象あり 維摩經注より

丹菓梵語ハ頻婆と海ふして相思子と云翻譯名

義又あり 亦信云唐小豆あり

○ 江城布山あり 江に山あり 江に山あり 江に山あり

人有豊希ふ企救 葛原の者あり けり身に口時

情を初し月分たのしむし 奇人と云ふし けり故に

の緒景と十布あり 中門目矣

かき多てうよとの中世友あり 差入ると云ふれ 雲也

暖衣飽食人のよれたちて 花の雲の情あり ぬ人

も多し くれ又對して いくて 面あり して 五つ子

迫り此 謙林を来り ねおに けり けり けり けり けり

るどそ かくいそ かくいそ 二階あり 後そ 後ハ 面あり

如よりとよみ—こまも流世のそむく大梗切のこ—
 いそりぞいぬれま—ゆとこふ古家の心もりのひけし
 とも

○白河院の男多をとお—子—海—少年乃児婦女の如く
 法客あり—免のひ驚—つと—そりそ強めるそりよ深て
 紅粉—そく—まふ—たたく—
はななま
大人とこた
 長門守高階経放—家人相傳ふの子知り—
 東大寺別當敏寛—思童とありて—と—
 せ—と白河院の年の時云眼—及びれ—て童殿工
 —つ家也ありて—元後—追男には—
 如重とつひ—は—

○或同信具善光寺開基の檀主と本多善光と云皇極帝
 の時々の名あ—と—云先よ善光ら大御進の信
 於—善光系

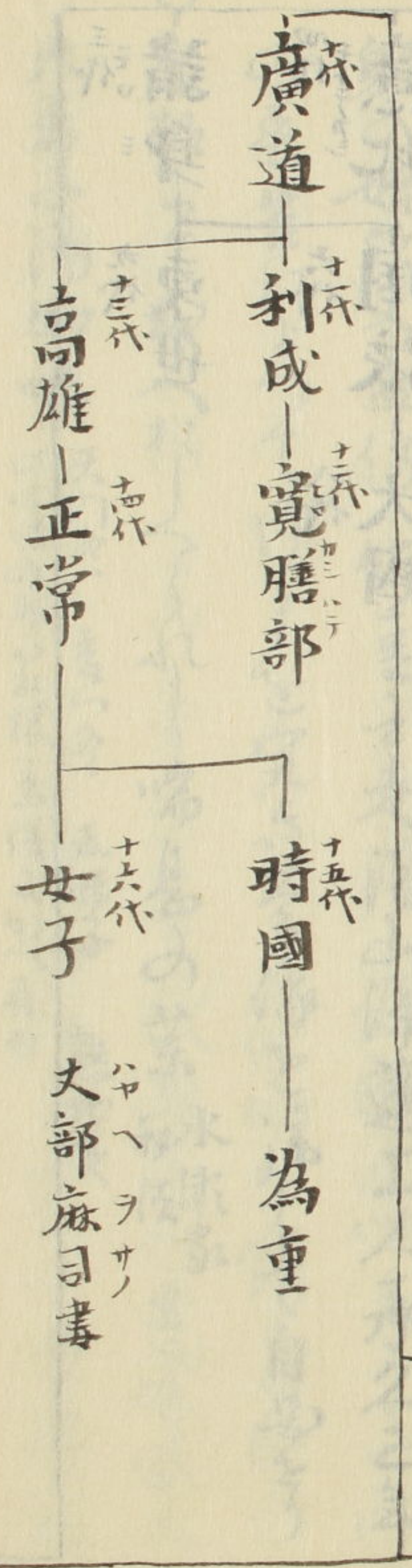
如来供奉檀越交名次第

一代ワキヲ 若麻績東人善光 三十九年供奉

二代ワカラ 若麻尔善依作留 十四年供奉

姓 信濃国水内郡本多人也或作善田

七代 若麻尔高倚



諸身三東世九代

意比四代国依六代大國八代

常世五代

此皆若麻示世多(正常世也)女子山來像と伝存(女子お像を)
二十代の子若麻示氏多(物れ及稱号又部を月)

長谷豊範五代正女

文部守平七代文部麻目男
正常外孫

時海十八代知重廿一代衆延廿四代

時郡十九代

知歳廿二代

高節廿五代

知隆廿六代

知門廿三代

善光寺本尊ハ一光三體多(新ノ模ノ鑄リハ尾澤本
鑿田の傍定尊法師靈表に依て建久六年三月十
五月中尊を鑄网六月廿八日ニ菩薩を鑄リ是ニ尊別
軀の始欽又益像ハ修三走湯山淨蓮上人承久二年
の表告れよつてゆきと定ふ尊像を流して自号を
○系於し或人れれ喘息の茶水煎茶
六君子湯加味天門冬、麦門冬、五味子、熟地黄、
けいり味の系根茶係より月也

いかにふくむ物とを流しは池よそへさしあつり
て後回と悟るの事もありしに勸学院の万翁
傍於島と旅あり舟才天と舟至し西堂を臨せし
れし船多に一旦地震して鐘樓倒れ陸地中に沈
し房列の海士と将て舟りうり求あしに泥ぬく
底とをりし舟と地を是も亦彼等の舟り
に也と云り万翁源一切経と彼等も舟至せしれ
後いあやしるも終しと云
○我公も其後玉罷科の氏とて所境と遊ひ代の累
とありとるもあがりし一室東の路とるし

科人遊放の事

右科人ともいふ俗に杖折と有放り或は遊材罷示又
と云ふゆへに科人夫とて之り付儀は勿論は件
の事なりとの取用も捨至しと遊ひ代と遊を成
は方しる事なりとの遊放
今之類は治行る方ありしをその方を治し格り
遊放方と有放り遊も遊を成とほく双方病身
此者然又ハ侍拂ふより遊放なり付有るの遊
もて有し方と遊放なり

寛弘三月

去年より之系師系於遊放竹管黒の刑と遊て斬流

六十五ノ三十三

のいたまゝとさるゝ免大の隣御とてかゝ免され侍る
我古津乃ハ明律清律とも考下りあつたや

○辛未七月二十日夜西村尾城跡乃一村 海東郡 唐田村 昔代明初

より地辰の如く老女忘れ迷ひ又俄然とて大風
起り木と板をどろり家顛倒するとの八戸を代
の民家大なる破れぬる一暴雨を後めく鳴とてこ
れ又塵を起ると多るとの教人西村に云ふ何となく風
音をきけり何の事なりと云く田園自苦たりと云
貝乃ぬけがしや竜乃ありと云くと云去比皆云
幸名取又反田村と一村吹動して風のよく民家顛
倒せし是西村の氣偏よして幸に成り地中流石を
衝て發せし時必朽と破るべしとて耐えよに居る
人もうらや死と云ふも言あり

○寛十一月八日南風強く南湖大橋迄ハ流湊漲り船
と船と一後尾城南宗玉寺本堂汗流く夏去
年此冬乃と一又常念佛不替 不替 大像も汗あり希
有此夏とて見ざるも一それと寺に金蔵とて
柱も汗の如く粟とて一亦多し冬日に南風をけり
西屋時氣よと知りし也り夏竹あり也
○此の能成宗師本館に令して春繪樂半凡時尚の
俗書板好と抄あり
コウノエ コウシヨウキ
○近き此所宗院より大寺を勧告し一能多の島とて今

見たり肉くみくにうけも

あま喰火と解くさうなる

鳥の言サに人余

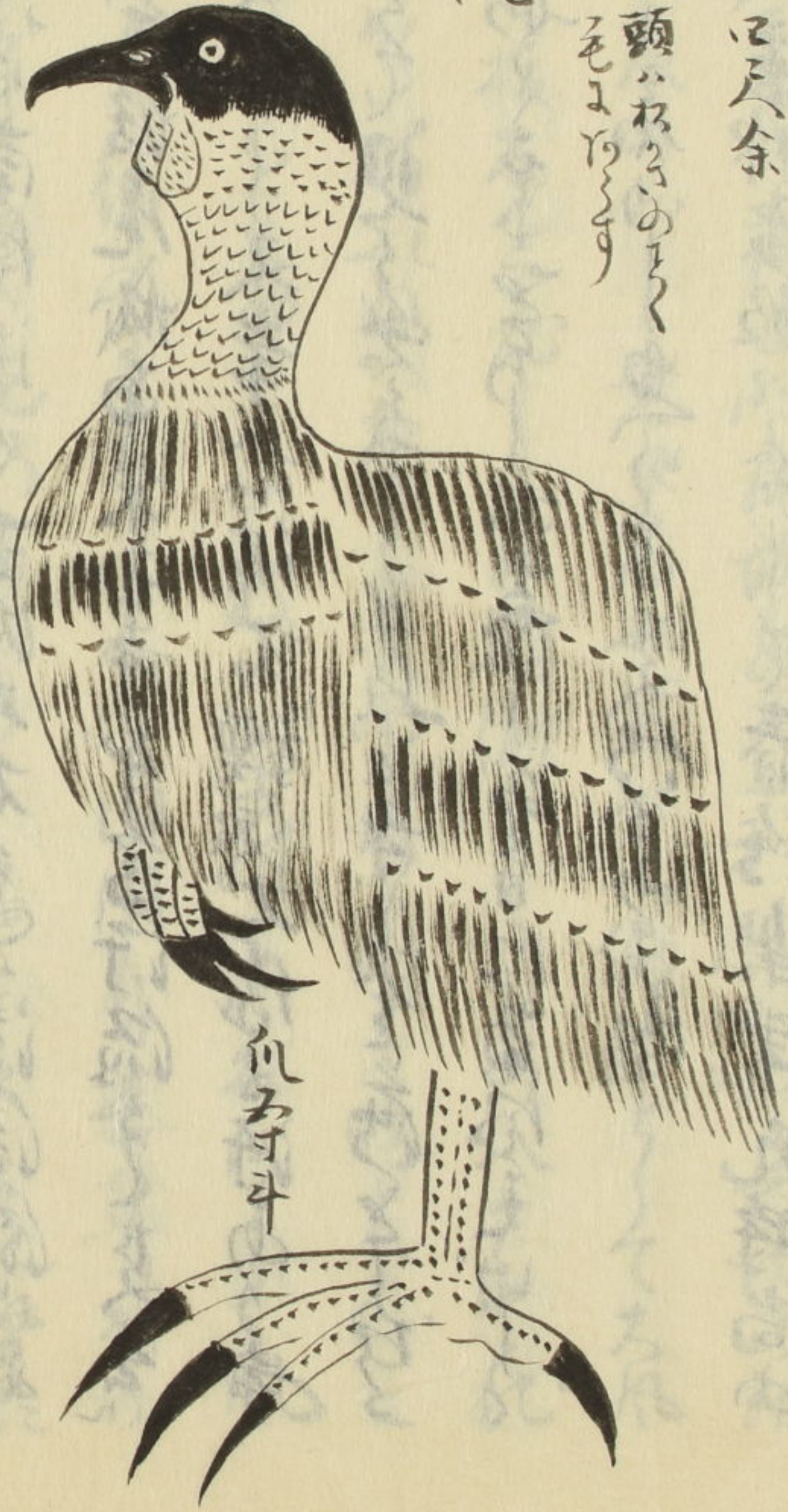
頭ハねるのまゝ
毛はゆるぎ

背より尻迄

羽のまゝ

さうのまゝ

さうのまゝ



鳥身はまよふておろく集のまゝ

○瀧川安八郎去迎村 産田内翁 仰修地 富忠井と云三多と云志地

宅後室に年久しく住らる老狐地と代親しく

今更の若く毎に初よりすすまふ成板益立心別

と梅庵と云 或細文森多と書く自云或狐もく何名かありん時よそ

筆法あり福と語一筆に功あり一旦形来るく失しか

ハあまましく打あけりしに回星乃との系よりしては

大洋話よあせし狐云形部かに板ありて福り住つ

事お来しうかくと告まひてせしと年比の情をい

思ひあひる人とりあけり海一まゝとよりあし心あり

を作りぬ年老て死ぬる時をいしは再会するや成思

とくはあま一筆かきて日比の厚情を謝し井上

子ともあまよく孝くあし必要文ありあまをい

別れ一里人と言はれ海をへて渡りて今家一見皆
 泣くありたりとや狐云一敵是邦寧波をり而の信
 ありし一と云の初見は信く富身と交いと口利は
 相承を善教よ生よ一と并とあり小物よをせよ
 ありせありとをし後よ少波阜山草教と云野千を
 ありて又も相三節と云や信は野狐よ一信と
 合衆一今世の方袍丹頂は大形信にへて野狐あり者後
 ○河内玉手安福の珂信とて我故君親友又信宗又重
 ありてをり一と云し七波院号とて板をり而布教いりぬ
 しく寺産をも寄あり一一人屋とて常も道徳の
 念佛而とをり一と他七寺有淨院又資料と附一彼

菩提と祈れ一人曰教の後、珂慶上人皮寺を信
 持し一山家乃信と云て

くこる心あり福と初あり山そく信母の海ありはり

○武穴慈光の西新塔と云里に在なり寺女ありと云も
 ありし信り納り而於よ出化邦へゆくは乃糖驕れり
 祈ふ家の婦人の如し喜漆の布物對の持る織物の
 由りて寺女^相の長刀と名を立造りて也乃其と信
 とは^是あり^ても名を代へ相大苑と稱し富社あり梨
 堂の少年及戲藝者相多扶持し一而く残物を寫
 利と云はれりともや

○伊波玉之部母茂 ワタツ 神社 大目 神社 雜太 サイツ 川田郡神社物部神社伊合 神社 坂持神社 越敷神社

家十余軒並一きり 船泊る道号居 又ツミくつ成儀よ製一並居

モト上ト享保三年夏に播入山ハ五十町程ありて高方より因

々より坂棠螺殼と灯と懸一ありて凡沖烟洞中に海云

類も人面もあくある金必命名付しんありと云 小本今三三

て先山あるは今何る石を琢めり海すやと訊ね入せり

て出る而跡様にてしるす海すいふ事ある石田はく水云

子に一根本岩よ山極の石とけ流し布を敷行ふ

粉とすくひ入れたる流れ金に當り懸置成流あり又

石と入りて石を砕きしけり乾く一後大智を初

ハ金くつお次と洞あり三度ゆきて交金成又見一に

夜小ありて金と流と分つ初五百ありて後より黄金

二三十目よとさるより 志金と流か一水町ありのちと流るくに六七

斗のちたちととけ云と流と流るつあり

金大工一とありてつくりてお入る料一人白銀又

ぬより止にぬきそて上下流あり工人をと丸酒色を

恣に一野ありんか一極より流も牙賣一て命も程

而民も志隆礼よて婦也

石ハ尾西海東那海永村の民志のちと云志享保三年

成の夏彼国乃吏小条那那の位一と流り 海帆ハ河地

海す又すきとありと流り

○江州志賀郡別保と云里に西念寺とて浄院あり

寺院の乾と云は河斗の人家の墟ありて住人

一海くうに居るとの必す此福ありとてや信ふ
 常元居士と云ふ蒲生も此侍南蛇井深をい焉と云者天
 正の号此小斎とあり強望して法利を捨つやうに信
 教百人ありて害をあるをて別佛小海り於愚のを
 忍ふせし人の御小信て兼びて常元と稱を慶
 長六年其城と尋に捕れし石田に堂を以てにあり
 禱と衆より相慰を罷人あれはそて其定乃柳木に
 結を七日諸人の見えしに終小斬れし死あり
 喚てさ海く愚をては又よ人乃信を文し衆首せ
 くれ懸ハ村の石家者にあり柳樹の下に埋しし終
 の月塚に信し虫多し生せし形ハ人を結せし

〇如く後蝶小ありてそりしを殺すに強ふるとも
 なる人号を常元虫と云ふ上にもす石りる今年
 癸卯又月彼ちと赤松へ去るあり人々見く強
 々ある物ありしと云ふ



面目鼻口仮りにあり
 一河へせして結れし如し
 且ハ端つるめく信しに辟衣續
 あり蝶に化せる時ある事と

吐首より下白足と繫縛し柳樹を粘し中にく
 る背に蛇を宛あり

〇小児茶河一頓死せる者あり
 麻下の腐野
 ハヤテトありや 諸茶

秋米百九十三石二斗地七町一段五畝九斗九步

○同庄七女子村

秋米百十二石一斗七升四合地十二町五畝二斗

今以村民居を以て高昌村小梅村の民徒農を以て

因取一柳庄八屋村

秋米九十七石三斗五升六合地九町一段三畝九斗

通計秋米四百五石五斗五升四合地二十八町三畝二斗

三斗

外四至田園市井凡三百三十余町

大宮司願

秋米七百七石

○並智那崎海原庄並村地五十四町七畝七斗二升

○那古府下城内外諸士宅地市井屋舎

五本田秋米二千一百九十七石八斗之也

○東に外連年所造の地八世温く水

○城内牛頭天王祠六月十六日御霊會車樂二兩前車

八名古屋村廣井村後車車町并屋町世町八御園家

の時より有

名古屋村廣井村の車むかひに今所定町廻三ヶ條の

に街少くかたりしに後同町のとりも歸りしに今所定

町定町三ヶ條より東の八民家あり近所の後徳士

家地りしに民撰去りしに地多狭とす家細あり

敬云の所時諸人従死のりありしに今堀川に廻

村民移りしに後ハ車と御霊所今ハ平定所の辻を
かきりしに後地他の路ハ常と車と持至けり一を
山平塚草車と稱す一を常所人の物小細巻
六月のまじり

右車版也智那長根唐津宮新村少て又十石の代
寄くろ万治二年己亥印章と賜ふ天王版ハ名古野村
少て三百石十石云九斗五升五合豊后家より心算邦
君印章と賜ふ

○東照宮祭田名古屋村十五町六段二歩秋米三百三十
五石九斗七升一合但印章早ハ二百石元高也

○智那星湯之部地毒々氣神天王祠

御霊會依忠吉君之余慶長十一年始之但車樂

○二兩自古有之只御設之事而已

山邊村の産池少て徑々人尋に口把刈之

○蟹カリナ二種あり其表ハ一之殼ハ大ニ長ク



此ハ常ニ多ク
カカリノ蟹ト云



此ハ殼ニ下ノみのト云
表ハ固ク細カ

凡葉螺化して紅蝦とある蟹蛸と赤蝦とある俗に云車
馬ハカカリノ化スル所カカリノ物と云ふも其子
と云ふも殼あり他乃空殼とかりて寄居ると必し
カカリノ物ト云ふも殼固クカカリノ物ト云ふハ古ク云

細や平たより小一物号鼓のまゐる人共此所の有る少く
見らる

○武蔵坊弁慶の生代ハ紀元終世ありと云但田舎と新
之と西に弁慶の生代と傳へしあり新之舟の生
地又産屋敷の楠とく枝子松の生り古木楠なりむ
かし松と並に立しが根生りけのめくと云俗云此の

○田舎に有合持現と云祠あり源平合戦の所あり赤
白乃鶴を合さくはひえし下ありと云或は新徳
と云

○本宮に月ナカり河田村系中世より河山と稱し七八尺
四方此山形を築しと云小祠と傳り流きし貞享年中

に右坂の傍と云ふ者神樂を創し是小代傳り元
禄十六年より又のめく山形乃小祠と昇流しはるま
形ハ京祇園金糸山と一形ありと云

○詩行葦朱傳曰古器物款識云々
款ハ内一切コミタル字識ハ外ハ鑄アケタル字磁器ノクハ
ニウモ款入ナリ和俗ケホリト云モ款

○孝徳天皇詔して凡死者若乃髮と刺而くみり
は埋む事と傳へしと云末世より是なり

○櫻田實永の縁起云ハ後京村相館長あり系譜雜
類三右大臣内麻呂此曾孫從五位上村相とあり是也

○一字折用兩字音同 酒令

相 木目 鈴 金今 鈔 金介 任 人至 湘 沐目 淋 林
弋 一 哇 吐 士 遂 竹逐

○文字のへんツクリありと和小まけし化字と成事

懸 懶 これ同 懸 タラ 懶 コラ

○高 字去、糸より因の閉と 文 音批器被未離とあれハ

○皇女元良宮小女まろとハ皇子内親王死二條細平と

書一親王あり又家まろとハ内親王依見殿入慶と書

一と堂上家よりありとこれ作

○玄上琵琶依入各器

○藤巨勢麻呂王男真作之子右臣三守之孫諸

葛之少納言玄上 元ヲトヨム、長平三年正月五日卒

○我國古より別く少く淘案と製す但案案あり

てハ度相の節ハ尾判漸産の割と才一とハ是ハ中古

當國智多の人者法名道元和尚修交傳入宋

一磁器此法と習ひあり一好くと云又尾張小

八行古よりして土器と焼初庭より青を一平史亦

見たり

○奉試賦秋興以建除等十二字居句頭

治文雄

建西星初轉除濕金正王滿江鴻翼足平陵菊叢香
定識幽閨女執抄織錦章破簾虫納薄危牖月光

信業持今世高貴の御ありと希とくわとてあ
くと云いおしとくありと愚の字おしと讀也
つれよ世ひあつとつれよふまもや

けづりひ削氷夏月食物損せぬ氷と冬之
とあり紅家治才二十新任大郷長云蓋肴物
暑月削氷甘瓜等ケツリヒカラフリ同五列見の首注粉熟又加
削氷云

帳臺乃夜行車旅人いとくひとておしとてか
はく海ひ二人とくはり年つとととておし
うらやぞい一處と人ると物とこれ相とかりと
のあふとととありいとてとととととととと

乃也房二十人斗とてとてとととととととと
とせに戸をねとあけてとととととととととと
とととととととととととととととととととと
づるとととととととととととととととととととと
向していとわいととととととととととととととと

信業持凡柳系子と世のまをとあふふか
身乃也いなくととととととととととととととと
何れ凡柳事の花人の園入と林とととととととと
どうとととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
あつととととととととととととととととととと

お母さまは下口にわらわのやけ書に禁中此
局（三つ）かこしき陰風友女に並ぶぬ遊女
のこし胃女あふふ事金靴よきしむつあふ
武臣権を握るふしし漸く下下あふふ

○不をつら蒲蒸あふし香曙少ぬ或人茶茶招むつら
くくるとつら是ら市ねふしそれハ火あふふし但
ありあふれおつらやあはせうつふし合合のふ
いるりこハ茶の字あれハ奥あふふとああぬあを
菜とふし傍あぬ河あふふむくハ飯汁のふあふ
鑑ハあはせとてしひ

○と海あり新氏あふふ伽藍神の号具府君某真君
某使者某判官等と稱せしと道徳此種あり泰山
府君司命真君五瘟使者雷廷三判官の類あり
又密家たりハ元帥の法も術家の事にて元
帥ハ武友よして神仏も多く授く趙元帥王元帥の
あつ

○朱元帥ハ胎と崑崙あり壽癸亥の年十月癸亥の日
時又育せし取藍青蚕眉巨眼左金錠と執右に
皂袋とりく等搜神大
全五我國大黒神に似たり又亥の
月亥の時としハ十月亥の子此種ハ中々張るあや
○東華紫府少陽帝君 東王父也
西王母 西王母也又名九灵大姆龜山金母

